会報 2024 年 10 月号

日本ニュージーランド協会 (関西)　**創立 1970 年 11 月 11 日**

New Zealand Society of Japan, Kansai

Autumn has come the wind of pillow coming to my ears

(M.Basho)

自然災害・各地での戦争などのニュースで居たたまらない気持ちになります。一日でも早く復興し終戦になることを願います。猛暑の夏がようやく終わり秋の気配が日増しに強く感じられるようになりました。
スポーツ・読書・食欲・行楽などの秋ですが、コロナ禍も終焉しておりません。安心・安全に留意してお過ごしください。協会では年内に 2 回の例会を開催いたしますが、来年は創立 55 周年を迎えます。協会の運営活性化、記念行事などのご提案をお待ちしております。
南半球、ニュージーランドのクライストチャーチのハグレイ公園の桜は既に散り、春の花々が咲き誇っているそうです。避寒を兼ねて年明けごろからニュージーランドへ旅する会員もおられるようです。

(松沼清司)

「Bare Island」Waimarama
(Hastings の南東に当たる小さな海沿いの町ワイマラマの向かいに浮かぶ島)

第 293 回例会 (京都府立植物園見学)10 月 26 日 (土)

第 294 回例会 (クリスマス例会) 12 月 7 日 (土)

【事務局】日本ニュージーランド協会（関西）
〒 558-0004 大阪市住吉区長居東 2-17-28，407
電話・Fax:06-6607-2112
http://nzsocietykansai.com　　E-mail:nzsjk@yahoo.co.jp

■ 秋の遠足（第 293 回例会京都府立植物園）（少雨決行）

と　き:　10 月 26 日（土）10 時 10 分〜14 時 00 分頃
ところ:　京都府立植物園面積 24ha 左京区下鴨半木町　075-701-0141
アクセス: 地下鉄北山駅 3 番出口すぐ。集合：北山門入口 NZ 国旗目印・**10 時 10 分　時間厳守**
＊ボランティアガイド付き見学（１時間弱）　当日の連絡先:090-1020-1971
植物園は開園 100 周年を迎え綺麗に整備されています。ガイドさんから園の歴史、栽培の苦労・裏話、見頃の花々の説明などを聞くことができます。大菊・小菊 300 鉢、希少植物作品、キノコの展示も見学できます。秋のバラ・コスモスも見頃です。20 年ほど前に建設された大温室もあり、比叡山も展望できます。

昼　食:　北山門横のお洒落なイタリアンの店「ピッツェリア In The Green」お好きなランチメニューなど (1500 円程度・各自負担)　075-706-8740
参加費:　無し。植物園・大温室各 200 円（各自払い）70 歳以上は無料。（ID 提示）
オプション:　1）京都府立京都学・歴彩館（京都に関する綜合資料館）植物園隣接
（昼食後）2）京都工芸繊維大学　美術工芸資料館　地下鉄松ケ崎駅 8 分
締　切:　10 月 19 日 (土)

＊お薦め図書：「植物園にようこそ」岩波科学ライブラリー国立科学博物館・筑波実験植物園編著

■ クリスマス例会 (第 294 回例会)

例年会場として利用させていただいた神戸倶楽部は大幅な改装中とのことで、残念ですが利用できません。会場をいろいろ検討し、本年はリーガロイヤルホテルで開催することになりました。近年、大阪にも多くのホテルが林立しておりますが、老舗のホテルで堂島川を展望しながら評判のお料理を楽しみ親睦を深めましょう。

と　き：12 月 7 日（土）11 時 30 分〜14 時 30 分
ところ:　リーガロイヤルホテル大阪（北区中之島 5-3-68）アネックス 7 階「The Ray」
06-6441-0954
アクセス: 1）JR 大阪駅西口高架下からシャトルバス（15 分間隔）
2）京阪電車中之島線「中之島駅」下車すぐ。
内　容:　お食事（フランス料理、乾杯のワンドリンク付き）・NZ クイズ・プレゼント交換・ビンゴゲーム・バザー・近況報告等
お願い：プレゼント交換には 1000 円程度をご持参ください。バザーの売り上げは協会の活動資金になりますので、品物をご提供ください。
定　員：会場の都合上 25 名です。　参加費:7500 円
締　切：11 月 30 日（土）以降のキャンセルは 6000 円をいただきます。

＊上記 2 例会の参加申し込みは、事務局へお願いします。

■ 試される姉妹都市の理念

（本稿はもともと箕面市ハット市友好クラブの会報（2024 年 7 月号）に投稿されたが、本協会も広い意味では国際友好団体であり、石井会長の了解を得て転載するものです）

現在の世界情勢を見ていると、姉妹都市の理念などは絵空事のようにみえる。

ロシアのウクライナ侵攻やガザでのイスラエルとハマスとの戦闘は終わりが見えず、苛烈さは増すばかりだ。戦場で殺し合う兵士の姿や爆撃で死傷する市民の叫びが、テレビで生中継される。その惨状は目を覆うばかりだ。

確かに私たち日本人も同じ体験をした。先の大戦で、言語を絶する苦しみを味わい、300 万人以上が犠牲となった。世界も同じだった。主要な国々を巻き込み、5 年以上続いた戦いは、5000 万人以上の死者を出したといわれる。その未曾有の惨禍があまりに甚大であったため、こうした悲劇を繰り返してはならないと国際連合が創設され、姉妹都市という理念もその流れの中で誕生した。

「戦争を始めるのは国家だが、市民同士が仲良くなれば戦争は防げるのではないか」宗教や言語や生活習慣が異なっても、お互いに直接交流し、ホームステイなどを通じて相手の文化を理解し、信頼関係を深める。こうした市民の草の根の交流は、時間はかかるが、世界の平和に貢献する。これが私の理解する姉妹都市交流の理念である。

しかし、現実はこうした理念をあざ笑うかのようである。ウクライナやガザでの泥沼の戦いに加え、中国や北朝鮮などは専制国家的言動を強めており、いま世界は第二次世界大戦いらい最大の世界戦争の危機に直面していると言われる。ことに国連の機能不全は深刻である。安全保障理事会では対立する常任理事国が互いに拒否権を発動し、何一つ決議できない。その繰り返しである。ただそうしたなかで、唯一の救いは、どの国も国連を脱退しようとはしない、という事実であろう。あきらめずにテーブルを囲んで話し合っていくしか道は無いと世界の人々は覚悟しているようにみえる。

姉妹都市交流も同じだろう。市民同士の個人的信頼関係から出発するこの運動が、世界の平和というゴールを見るまでには気が遠くなるような時間が必要だろう。だからこそ今、未来の可能性を信じて進む、この一歩一歩が大事になるのだろう。

以上

註：姉妹都市について第二次大戦後、宿命のライバルであったドイツとフランスとの間で始まり、アメリカではアイゼンハワー大統領（1953-1961 年）により‘People to People’プログラムとして提唱された。日本では 1955 年長崎市と米国セントポール市の間で始まり、それ以来拡大の一途をたどり、現在 1,823 の姉妹都市提携が存在する（注 1）。NZ とは 1973 年倉敷市とクライストチャーチの間で始まり、現在 44 の提携が存在する。大阪府箕面市と NZ ハット市（ロワーハット）とは 1995 年に提携し、さまざまな事業を展開してきた。

注 1:(一般財団法人)自治体国際化協会(CLAIR)資料

(佐藤敞)

■ 読書の秋です、当会の蔵書・DVD をご紹介します。

- ニュージーランドに魅せられて（川瀬勇当会初代会長著）
- 「ニュージーランド」－私を虜にした楽園の国―（松沼清司当会副会長）
- 日本人の知らない武士道（A. ベネット関西

大学教授・当会客員会員）

- 限界突破の哲学（A. ベネット教授）
- ロワーハット。最初の庭園都市（箕面市ハット市友好クラブ和訳）
- ニュージーランドを知るための 63 章（青柳まちこ編著）
- 先住民族社会の形成存続 NZ 南島ナイ・タフ族の伝統と社会（原田敏治著）
- NZ 真夏の聖夜の旅（黛まどか著）
- NZ の大らかで自然に寄りそう暮らし 365（草野亜希子著）
- 55 歳の男がゼロから海外で農業をはじめ、奇跡のワインを造った話（大沢泰造著）
- クジラの島の少女（マオリの伝統社会を舞台にした DVD）
- ニュージーランドの若大将（加山雄三の若大将シリーズ、懐かしの名優も登場する DVD）

＊貸出希望の方は、事務局へご連絡ください。

■ パリオリンピック・パラリンピック 2024

5 カ国のメダル獲得数

- オリンピック:7 月 26 日 ~8 月 11 日

	金	銀	銅	合計	2024 年人口 (約)
NZ	10	7	3	20	520 万人
日本	20	12	13	45	1 億 2300 万人
米国	40	44	42	126	3 億 4200 万人
豪州	18	19	16	53	2640 万人
仏	16	26	22	64	6490 万人

- パラリンピック:8 月 28 日 ~9 月 8 日

	金	銀	銅	合計
NZ	1	4	4	9
日本	14	10	17	41
米国	36	42	27	105
豪州	18	17	28	63
仏	19	28	28	75

■ 北海道ニセコ町

近年、ニセコ町は海外からの観光客にスキーリゾート・温泉などで人気があります。年間、10 数万人が訪れていますが、滞在期間が長いのが特徴です。札幌から車で約 2 時間、小樽からは約 1 時間半。1895 年に入植が始まり 1901 年には狩太村と命名され開発が進みました。1964 年に「ニセコ町」に改名されました。ニセコとは、アイヌ語で「切り立った崖」を意味するそうで北海道各地にはアイヌ語由来の地名が多いです。NZ もマオリ語由来の地名が多いことはご存じの通りです。人口は約 4500 人ですが、800 人ほどが外国人。農業と観光業が盛んです。宿泊費が高くなっているそうですが、キーウイ・オージーの人々などにはリーズナブルだそうです。アジアの人々にはパウダー・スノウが人気。猛暑の 7 月中旬、自宅のパソコンで北海道をいろいろ検索していて有名になったニセコをクリックしました。町役場には、国際交流員がいてクライストチャーチ出身のパルマーさんと連絡が取れ、会報に記事を書くことをお願いしました。シンプルな英語で会報のために寄稿いただきましたのでお読みください。彼女は 8 月初めに帰国しましたが、機会があれば来日したいとのことでしたので近い将来皆さんと会う機会があると思います。

(石井久行)

■ Message from Niseko

Kia Ora, Hello! My name is Brooke Palmer and I'm from Christchurch, New Zealand. I am currently living in Niseko, Hokkaido. I first became interested in Japan when I was a student at Hornby High School, where I had the opportunity to do a 2 week homestay with a student from our sister school, Tokiwagi Gakuen High School in Sendai. I did not understand any Japanese at the time, but my host family was very kind and it left a good impression on me, inspiring me to start studying Japanese. From there, I continued my studies and did an exchange in 2017 at Kwansei Gakuin University in Nishinomiya, Hyogo Prefecture for about 6 months. After returning to New Zealand, I graduated and decided that I wanted to experience working in Japan. Shortly after, border restrictions were tightened due to COVID-19, so I decided to study translation and interpretation at graduate school in New Zealand. After graduating I came to Japan on the JET programme and have been working at the Niseko Town Hall as a Coordinator for International Relations (CIR) since 2022, but will be returning to New Zealand in August. When I return to New Zealand I will be job hunting and would like to find a job where I can continue to use Japanese if possible. I'm looking forward to what the future will bring!

Ms.B.Palmen

When I first heard that I would be working in Niseko, I had no idea what kind of place it was, and upon looking it up I realized that it's a ski resort in the countryside of Hokkaido, and is world famous for powder snow. It almost never snows in Christchurch, so I was a bit worried, but after coming here I actually came to like the snow and living in the countryside! Niseko is a town full of nature, which reminds me a bit of New Zealand, everybody is very kind and friendly and I enjoy the laid back lifestyle.

Niseko Town

I also had many great experiences during my time as a CIR. Because Niseko is a tourist hotspot, some of my main tasks

included translating documents into English for the Town Hall and providing interpreting services for foreign residents. I also had the opportunity to plan my own events. I am an avid baker, and New Zealand food is pretty rare to come across in Japan, so I held cooking classes for town residents where I taught them how to make some classic kiwi foods like Afghans, cheese rolls, hokey pokey and more! These classes were really enjoyable as I was able to get to know more people in the community and share some of my favorite New Zealand foods! I also had the opportunity to share New Zealand culture in our monthly newsletter and on our weekly radio show 'International Radio' on Niseko Radio. I'm very grateful for the chance to work in Niseko and I am looking forward to returning to Japan in the future.

(Ms.B.Palmen)

■ Gekkan NZ をご存じですか。

ニュージーランド発の生活総合情報フリーマガジン「月刊ニュージー」は今年の４月から季刊誌になりました。NZ では、日本レストラン・お土産店などで入手できます。NZ の社会トピックス・生活情報などを紹介しています。GekkanNZ 社の許可をいただきましたので在ウェリントンの日本大使館便りの記事を同封します。その他の記事をお読みになりたい方は Web サイトで冬号が公開中ですから検索されてはどうでしょうか。

■ NZ 文化講演会が 7 月 6 日に開催されました。（第 291 回例会）

本会は、服部副会長の提案によるもので、同氏所有のビル（都島区）3 階の会議室を無償提供していただきました。

出席者は会員の他、箕面市ハット市友好クラブ、キーウイサロンからの 5 名を含め 21 名となりました。パソコン・プロジェクターも準備いただき映像的にも楽しめる会となりました。

テーマ 1:「**NZ の SDGs 的生活文化**」は当会副会長、松沼清司氏に 2 月の旅行について講演いただきました。

（概要）

- 今回の目的はコロナ禍で行けなかった友人訪問、サイクロン（ガブリエル・2 月 12 日に北島に上陸、15 日までに甚大な被害を与え死者 11 人、復旧には 1 兆円が必要との見込み）の被害後の気がかりだった復旧状況を見聞すること。
- 旅行中に先ず驚いたのは、機内食のカトラリーのナイフ・フォーク・スプーンが全て木製に変わっていた。さらに皿、カップ・イヤホンの入った袋まで紙製品だった。「さすがに環境保護意識が高いＮＺ！」と感心させられた。
- 乱獲防止のために海・湖で獲れる魚介類の制限表示板が目立った。

魚介類の制限看板

- 以前住んだロトルア・タウポ・タウランガ等をレンタカーで周った。ロトルアには日本式の温泉宿がある。
- 地熱発電所（ワイラケイ）を見学し、NZ が自然エレルギー利用に熱心であることを再認識。NZ は総発電量の 80% 以上が再生可能エネルギーで、その内 60% は水力、20% が地熱。原子力はゼロ。2025 年までに自然エネルギーの割合を 90% の目標を挙げている。日本も前例や慣習にとらわれず大いに地熱を利用すべきと思った。
- フィヨルドランド国立公園内にあるマナポウリ水力発電所は景観と環境に配慮して国民投票で発電設備を何と地下に建設した。

* 今回の旅行については、会報 6 月号にも寄稿いただいたが、やはり、直接にお話を伺うことができ有意義でした。

松沼氏:1988 年、ロケで初めて NZ へ行き一目ぼれ。1995 年、NZ の永住権取得。1996 年、会社を早期退職し、家族で移住。1999 年、帰国後 NZ カフェレストランを宝塚に開店。2006 年、店をご子息に譲られ、以降ほぼ年に 1 回 NZ に旅行。

その後、ティー・ブレイクがあり、会員で次の講師、堀江真樹氏が入れて下さった MusicaTea と NZ で有名な「クッキータイム」のクッキーをいただきながら交流を深めました。

テーマ 2:「**NZ の食文化、生活習慣と良い旅の紹介**」は、堀江真樹氏に講演いただきました。経歴を含め若いころからの体験談をお話されました。

（概要）

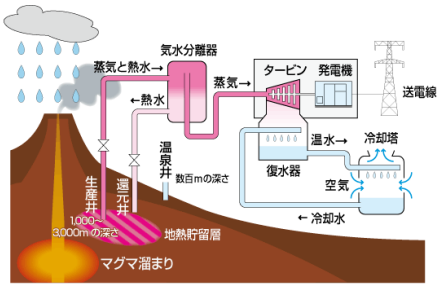
- 昨年、堀江敏樹氏と交代して当会に入会（2 世会員）
- 1973 年、8 歳の時に父親（堂島に在ったティサロン「ムジカ」の店主で紅茶に関する著書も多数執筆）と同行し初めて NZ へ、夏のクリスマスを体験。
- 1981 年 12 月から翌年 12 月までダニーデンのジョン・マックグラシャン・カレッジに留学、NZ で青春を過ごすことができ両親に感謝。
- 2015 年から 17 年東京都中野区の「中野・ウェリントン友好子供交流」、「同会中学生派遣事業」においてボンティア通訳として参加。
- NZ 滞在中はレイルウェイ・パスを利用して NZ 国内各地を旅行。
- NZ 人は紅茶をよく飲む習慣がある。
- 中国系の移民が多く、彼らは集まってホーム・パーティや家族麻雀をよくする。・マオリの文化を大切にしており、地名はマオリ語が多い。
- NZ 航空は成田からの直行便があり便利だが料金が高いので、シンガポール・シドニー・フィジー経由などの乗継便もインターネット（trip.com 等）で検索して見ると面白い。

ダニーデン駅舎

お二人の貴重な経験からのお話は、NZ 事情を理解するうえで大変参考になりました。私は、8 年前に NZ へ行きましたが、できるだけ早く再訪したいと思うようになりました。

「**追記**」松沼氏の講演の中で紹介されたワイラケイ地熱発電所の長いパイプラインの写真を見ていたら地熱発電に興味を持ちましたので、少し調べたら多くの情報が出てきましたので、一部紹介します。日本は NZ の約半分の発電設備を所有しています。

1. 日本貿易振興機構制作の「世界は今―JETRO Global Eye」2023 年 2 月 16 日号“火山大国日本! 地熱発電にひかり、日本と NZ の融合へ”日本と NZ の協力関係は既に始まっています。（You Tube ）是非ご覧ください。
2. 紙媒体の資料としては、エネルギー・金属鉱物資源機構の「地熱発電情報」日本企業は発電設備の技術力は世界有数ですが、温泉地が殆どで地元の受け入れ態勢が未整備のような印象を持ちました。
3. 産業技術総合研究所の産総研マガジン 2023 年 7 月 19 日号「地熱発電とは」



地熱発電の仕組み。
独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構
HP より

(中村重夫)

■ ラム肉調理・試食会報告

9 月 14 日の午後、昨年と同じ会場、「とよなか国際交流センター調理室」で 21 名の参加で開催しました。毎回ですがアンズコフーズ様の協賛を得て美味しい NZ 産ラム肉を、大沢ワインズ様からは美味しいワインをそれぞれ特別価格で購入でき、両社に感謝。世話人の事前準備が万端で調理会は盛況でした。初参加の方は NZ 産ラム肉（生後 4～6 ケ月で出荷）の美味しさに舌鼓を打っておられました。香草焼きと味噌大葉焼きのメニューは NZ でも味わうことができないのではないでしょうか。NZ 産のブイヨンを使ったスープ、NZ 産ミルクを使ったアイスクリームとキーゥイのデザートも好評でした。今回も中村さんの次男さんが開発された鳥取県産の「星空舞」を提供いただきました。粒感があり、跳ね返る食感、冷めても美味しいなどが特徴でおにぎりは好評でした。

調理室にて

■ 原稿募集中

NZ に関する情報・旅行記などご寄稿をお願いします。次号の締切は 2 月末です。

■ HP のリニューアル、会報編集

ご協力いただける皆さんを募集中です。

■ 新会員募集

NZ に関心あるご友人・知人をお誘い下さい。